

【民謡】

「中国地方の子守唄」は、岡山県・井原市出身のテノール歌手・上野耐之（うえの たいし）が、山田耕筰の前で母が歌っていた子守唄を歌い、それに感銘を受けた耕筰が採譜したという。「こきりこ」は、日本で最も古い民謡とされる。田楽から派生したものとされ、富山県南砺市の五箇山（合掌造り集落で有名）に伝わる古謡である。「そうらん節」は、北海道日本海側沿岸に伝わる民謡。ニシンを水揚げするときの作業歌で、沖揚げ音頭とも言われる。「竹田の子守歌」は、京都市伏見区の竹田地区で採集された民謡。同和地区に伝わる子守歌であり、フォーク・グループ「赤い鳥」の歌唱によって昭和 46 年にヒットした。「五木の子守歌」は、熊本県球磨郡五木村に伝わる子守唄。子守をする貧しい奉公娘が、己の不幸せな境遇を唄ったものである。

【日本の四季】

《春》

「みかんの花咲く丘」は、昭和 21 年、NHK ラジオ番組の放送前日に短時間で作詞され、列車のなかで作曲された。その自然で伸びやかなメロディは、望郷を歌う詞とともに人々の心に希望を灯した。「山小舎の灯」は、昭和 22 年の流行歌。シベリアから復員した米山正夫が抑留中に書いた曲を、彼と懇意にしていた近江俊郎が歌ってヒットした。暗い世相を吹き飛ばすような明るさがある。「茶摘み」は、作詞作曲ともに不詳。晩春から初夏にかけての風物詩である茶摘みの情景を歌っている。

《夏》

「知床旅情」は、昭和の名優・森繁久彌が作詞・作曲を手がけた。発表は昭和 35 年。撮影で訪れた羅臼の地に感銘を受けて書かれたという。「琵琶湖周航の歌」は、京大（旧制三高）ボート部の歌。周航とは、同校の夏の伝統行事で、浜大津の三保ヶ崎を出発して、雄松、今津、竹生島、彦根、長命寺などを経て、3 泊 4 日前後で琵琶湖を一周する。

《秋》

「まっかな秋」は、リズムカルな前半部と情感あふれる後半部の対照的な旋律が、日本の秋の彩りを歌う。NHK「みんなのうた」の兄弟番組である「たのしいうた」で、昭和 38 年秋に放送された。「村祭」は、明治 45 年初出で、作詞者は不詳。唱歌には現在でも作者がわからない曲がある。擬音が多用された歌詞に自ずと心は躍り、祭りの笛太鼓が聞こえてきそうである。「秋にさよならする日」は、中田喜直と詩人サトウハチローとの黄金コンビによって生み出された名品。

可憐な旋律のなかに一抹の寂しさが漂う。

《冬》

「こもりうた」は、NHK「みんなのうた」で放送された童謡。子どもを寝かしつけるために母が語る雪の小人の物語で、旋律も言葉も柔らかく、夢見心地へと誘う。「虹と雪のバラード」は、昭和47年2月、アジア初の開催となった冬季・札幌オリンピック・テーマソングとして作られ、トワ・エ・モワの歌唱でヒットした。